

Ⅱ章 資料収集・保存

- 1 資料収集と整理
- 2 資料室における相談業務・情報発信
- 3 震災資料の活用
- 4 資料を通じた交流・ネットワーク

1 節 資料収集と整理

1 項 一次資料

資料室で保管する資料は、「一次資料」（震災等に直接関連する資料）と「二次資料」（図書・刊行物）に分類される。

1 一次資料の収集

資料室で保存する一次資料は、平成 14 年 4 月のセンター開館以前の事業で収集されてきた約 16 万点の資料と、開館後の調査・収集活動によって集められた約 2 万 5 千点の資料からなる。

(1) 開館前

開館前の事業とは、平成 7 年 10 月から兵庫県からの委託を受けた(財)21 世紀ひょうご創造協会によって開始された収集事業であり、また平成 10 年 4 月以降は(財)阪神・淡路大震災記念協会が、収集事業を継続すると共に、公開基準等を検討してきた。さらに平成 12 年 6 月から約 2 年間にわたり、兵庫県により「緊急地域雇用特別交付金事業」等も活用した大規模な震災資料の調査事業において約 16 万点の資料が収集された（詳細は巻末資料 6-(2) を参考のこと）。

(2) 開館後

平成 24 年度に行った資料収集調査は、新たな所在調査と既存調査を含め計 9 回で、平成 25 年 3 月末現在で、一次資料提供件数は 3,768 件（資料点数約 18 万 5 千点）となった（詳細は巻末資料 6-(4) を参照のこと）。

〈収蔵状況〉

(平成 25 年 3 月末現在)

	映像・音声	紙	モノ	写真※ (アルバム等)	総数
平成 24 年度受け入れ 一次資料点数	103	7,882	1	15	8,001
平成 24 年度 3 月末現在 一次資料点数 (累計)	1,261	177,029	1,422	5,911	185,623

2 一次資料の公開

提供者との協議について、平成 16 年度末段階で、一次資料約 16 万点のうち約 70,000 点、提供先件数にして約 820 件が、公開について別途協議が必要とされていた。平成 17 年度以降、資料提供者と公開に向けての協議を進めたが、平成 19 年度末には協議が必要な残件数は約 270 件（約 55,000 点）となった。しかし、協議を進めていくにつれ、提供者の転居先が不明な場合も増えてきたため、未協議の資料目録の公開を先に進め、利用者からの閲覧希望がある資料を優先的に協議していく方針に変更した。これを受けて、平成 21 年度には今後個別協議が必要な資料、約 48,900 点の資料について目録公開の作業を行った。平成 24 年度には個別協議が必要な資料について、今後も提供者と公開へ向けた協議を続けていくこととした。

2項 震災資料の保存

1 環境調査・管理・保存

(1) 資料保存環境調査の実施

原資料の劣化を防ぎ、収集した時の状態を可能な限り維持・保存していくためには、資料保存に適した環境を整えることが必要である。そのため資料室では、主に資料収蔵スペースにおいて年1回の資料保存環境調査を実施し、調査結果に基づいた資料保存環境の整備を進めている。調査を定期化して今年度で9年目となった。

調査は資料保存環境の変化を調べるために前年度とほぼ同じ箇所（3階展示フロア内の収蔵スペース、5階の作業スペース、7階の2つの収蔵庫）で実施した。その結果、昆虫類および真菌類が捕獲された場所が確認されたので、収蔵庫内に粘着マットを置くなどの対策を継続的に実施している。また、清掃を強化するとともに、専門業者と相談して温湿度コントロールや定期的な殺虫処理などの対策を講じていくことを検討している。

(2) 温度・湿度データ管理の実施

保管状態把握のため、収蔵スペースの温度と湿度を継続的に計測している。昨年度に引き続き、今年度も3階と7階の資料収蔵スペースに温湿度データロガーを配置し、年間を通じた温度と湿度のデータを保存した。年間を通じた計測結果に基づいて、空調設定を変更するなど、3階展示フロアおよび収蔵庫の温度・湿度の安定化を図っている。また、3階展示フロアに収蔵している保存箱内に、湿度を安定させるため、調湿紙を導入している。今年度は、これまで計測してきた温度・湿度データの結果に基づいて、家庭用除湿器を3階展示フロアに3台、7階に2台設置し、夏から秋にかけて稼働させ、湿度の安定化を図った。

2 音声資料の媒体変換の実施

当センターで所蔵している音声・映像資料のほとんどは、作成されてから5年以上が経過しており、音声・映像の劣化が懸念されている。そのため、音声・映像資料のデジタル媒体変換を順次進めている。平成23年度は、音声資料のうち、カセットテープ、コンパクトディスク、ミニディスクに記録された約500点の資料うち、120分カセットテープ100本のデジタル変換を行った。

平成24年度は、VHSテープ、8mmディスクで記録されている映像資料のデジタル変換を進めた。今回は、このような映像資料のうち、公開判別を「公開可」としている全177本を優先的にデジタル変換した。

3項 震災資料の利用

1 閲覧

「公開判別」で、「公開可」及び「条件付可」とされた一次資料は、閲覧申請を経て即日資料室内で閲覧することができる。なお、「公開可」とされた資料は実物を出納している。「条件付可」とされた資料は、震災資料専門員が複写の上、プライバシー情報を保護して出納している。

平成24年度の一次資料の閲覧申請件数は、25件、201点であった。主に大学教員や学生、研究者等による研究・調査に活用された。また、特別利用申請件数は、3件で、調査・マスコミ取材等に関連するものであった。

2 複写・撮影

平成 24 年度の複写件数は 4 件、撮影件数は 1 件であった。複写の対象となる資料は主として紙資料と写真資料が多い。大学教員や、学生・大学院生などによる研究目的のほか、新聞記事やテレビ番組制作、自治体・企業の広報・パンフレット等での利用を目的としたものがあった。

3 貸出

防災を普及するという目的に限り、今年度も兵庫県広報課の写真や、一般から提供された写真をデータ化して貸出を行った。貸出写真は出版物に活用された場合、成果物を二次資料として資料室で受け入れることもあるため、貸出が資料収集活動にも繋がっている。貸し出した写真資料は、地方自治体が作成する防災パンフレット、広報紙、展示パネルなどに活用された他、テレビや新聞をはじめとしたメディアにおいて、阪神・淡路大震災関連や防災関連の特集などで使用された。

4 項 二次資料（図書等刊行物）の収集

二次資料とは図書・雑誌・ビデオ等視聴覚資料などを指す。

(財)21 世紀ひょうご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会から引き継いだ約 23,000 点の震災関連資料に加え、阪神・淡路大震災関連や、その他の災害（地震・津波など）の資料、防災関連の資料、その他資料室として必要な参考文献について収集している（参考資料 6-(3) 参照）。

特に、平成 24 年度は、東日本大震災関連の研究論文集の収集に力を入れた。また、東日本大震災の被災自治体が策定した復興計画も積極的に収集した。

Ⅱ章 資料収集・保存

2 節 資料室における相談業務・情報発信

1 項 相談業務の意義

資料室への相談は、来室者に留まらず、電話や文書、ときにはメールの形態をとって寄せられる。

資料室開設以来の相談件数は累計で 2,000 件近くに達し、相談者の相談内容も多岐にわたっている。特に、近年の動向として、相談者の専門分野における高度で詳細な資料の提供を希望するケースが漸増傾向にある。その一方で、自分が住む地域の活断層地図の閲覧をはじめとして、家具の転倒防止に関する資料など、個人からの災害対策、防災・減災についての相談も多かった。

また、今年度も、東日本大震災に関連して、以下のような相談内容が多かった。第一に、東日本大震災における被害状況・復旧や復興状況の比較対象として、阪神・淡路大震災の当時の状況を質問するものである。第二に、今後予想される津波災害に関するものである。この相談内容は、国での議論などが繰り返し報道される中で、新たな津波対策の必要性が広く一般に周知されたため、研究者や報道関係者ではない、一般の方からも相談が寄せられた。さらに、今後予想される津波災害のなかでも、南海トラフでの巨大地震と、それに伴う津波に関する相談が多く寄せられた。特に、ハザードマップや家具の固定方法に代表されるように、生活に密着した事柄に関するものが多数であった。

このように、市民にとって身近な問題から高度で専門的なものまで、年間を通じて寄せられる多くの相談に対してきめ細かく対応することは、阪神・淡路大震災の教訓を発信することを一つの使命とする人と防災未来センター資料室にとって非常に重要な意義がある。

そのため、震災資料専門員には、図書や資料、インターネット等による従来の手順による情報提供だけでなく、他機関等との連携も併せて行い、的確に相談者に提供することが、より一層求められる。資料室では、過去の相談業務の内容をデータベース登録することにより、今後の同様の質問には迅速に対応できるようにしている。

2 項 相談業務の主な内容、相談項目

1 相談者地域

相談者地域別内訳は、近畿地方が最も多く、次いで関東地方が多かった。

2 相談者内訳

昨年度の相談者内訳では、報道機関からの質問が最も多かったが、今年度は個人からの相談が最も多く、研究教育機関がこれに次いだ。相談者からは、報道などで近い将来起こると報道されている南海トラフでの巨大地震や東日本大震災とも関連づけて、阪神・淡路大震災を中心とした地震防災全般に関する情報提供を求める傾向があった。

3 相談内容

相談内容としては、1 項で述べたように、想定される巨大地震や、東日本大震災、阪神・淡路大震災との比較を求められる相談が多かった。個人からは地元地域のハザードマップや自主防災マニュアルに関するものが目立つ一方、阪神・淡路大震災後における孤独死の

実態など、今後において危惧されていることを問うもの、地震の揺れに関する専門的な質問もあり、多岐に及んだ。研究教育機関からの相談では、避難誘導の手順や防災知識の普及方法、訓練の内容構成に関することを尋ねられることが多かった。昨年度目立った報道機関からの相談は減少したが、具体的数値を求められることが多かったのは昨年度と同じであった。

相談業務 (平成 24 年度分 No.1965 ～ 1995)

相談者住所内訳

地 域	人 数
北海道・東北	1
関 東	5
信 越・北 陸	0
東 海	1
近 畿	15
中 国	1
四 国	2
九 州・沖 縄	0
海 外	0
不 明	6
計	31

相談業務相談者内訳

種 類	人 数
行 政 関 係	2
研 究 教 育 機 関	5
報 道 関 係	2
企 業	2
各 種 団 体	3
個 人	13
外 国	0
当 セ ン タ ー 内	4
そ の 他 (医療関係など)	0
計	31

相談業務相談内容内訳

相談内容	件 数
阪神・淡路大震災関連 (被害状況、復興状況、東日本大震災との比較など)	15
その他災害 (地震・火山・台風など) について	0
外国の災害について	0
防災関連 (防災教育、防災訓練など)	8
建築関係	0
活断層について	0
地震全般について (メカニズムなど)	2
当センターについて	4
資料室の資料貸出に関することについて *ただしビデオ貸出は除く	1
寄贈についての質問	0
医療関連	0
その他 (詩や CD などの質問も含む)	1
計	31

3項 ビデオ・DVD の貸出

営利を目的としない防災学習等に限り、学校・団体等へのビデオ・DVD の貸出を行っている。現在ビデオ 22 本と DVD 27 本を貸出用としており、平成 24 年度は 138 件 (231 本) の貸出を行い 15,715 人が視聴した。

ビデオの貸出先

貸出先別	件 数	本 数
学校関係	80	130
行政関係	6	10
団 体	39	64
企 業	14	25
その他 (病院など)	0	0
計	139	229

1 貸出先

貸出は学校関係が最も多く、地震についての防災教育や阪神・淡路大震災についての学習資料としての使用が目立つ。そのほか団体や企業内で自主的な防災学習への利用も増加している。

2 貸出地域

地域別の申込では、近畿地方が圧倒的に多く、全体の約 73% を占める。続いて関東地方 (全体の約 9%)、東海地方 (全体の約 6%) となっている。昨年度は、近畿地方の次に東海地方からの貸出申し込みが多かったが、今年度は、一昨年度と同じように、関東地方からの貸出申し込み割合が再び近畿地方に次ぐ結果となった。

3 貸出ビデオ

貸出用映像記録の中で貸出回数が最も多かったものは DVD『ビジュアル版 幸せ運ぼう [中学生以上]』である。この作品はもともと震災学習用に作成されているため、細かいチャプターに分かれており、目的に応じて映像を選んで構成できる。また付属の CD-R に副読本や震災当時の新聞記事、写真などが入っており、広く防災教育に活用できるようになっている。他には、救命活動の限界といわれる震災直後 72 時間に、消防・自治体・警察・病院等がどのように対処したのかを簡潔に 30 分でまとめたビデオ『震度 7 阪神大震災の教訓 ドキュメント神戸 72 時間の記録』や、今後の地震対策として『地震に備えて今、やるべきこと』の貸出も多かった。昨年度から貸出を開始した東日本大震災関連の DVD では、巨大地震・大津波の映像と、専門家による解説、震災当日のニュース映像を収録した『東日本大震災の記録』(東北放送制作) の貸出が多かった。

4項 情報発信

1 ホームページ及びインターネット検索について

平成 17 年度に開始したインターネット検索は今年度も引き続き運用されている。一次資料については、資料によっては画像が閲覧できる。特に、写真資料の画像がインターネッ



<インターネット検索画面>



<ホームページ画像>

トで閲覧できることは遠隔地での貸出申請の際に非常に役立っている。その際、一次資料を検索した際にそれぞれの資料の資料番号が表示されるため、貸出申請や問い合わせにスムーズに対応可能である。また、二次資料は書誌データの外、目次等も表示し、資料の内容を推測しやすくしている。

そして、センターホームページ内の資料収集・保存のトップページでは、お知らせ欄を設け、現在、資料室で開かれている企画展や、資料室ニュース最新号の情報などを発信した。

2 資料室ニュース

資料室では、平成 14 年 9 月から資料室ニュースを発行してきた。

平成 24 年度は各号で特集テーマを企画し、年 3 回、各 2,000 部発行した。紙面の内容は、特集テーマに関する当センター所蔵の震災資料や図書の紹介、また、資料室に関する最新情報などである。

資料室ニュースは、資料室や西館 1 階ロビーで配布しているほか、センターホームページからもダウンロードできるようにしている。

資料室ニュース URL: <http://www.dri.ne.jp/shiryo/news.html>

○今年度の特集テーマ

- ・「豪雨災害に備えて」(平成 24 年 7 月発行、Vol.48)
- ・「センター開設 10 年 資料室の活動と所蔵資料」(平成 24 年 10 月発行、Vol.49)
- ・「市民が撮った東日本大震災 3.11 キロクのキロク写真展」(平成 25 年 3 月、Vol.50)



Vol.48



Vol.49



Vol.50

Ⅱ章 資料収集・保存

3節 震災資料の活用

1項 震災資料を活用した企画展

平成 24 年度は、資料室企画展として、東日本大震災の写真展を行った。

企画展「市民が撮った東日本大震災—『3.11 キヲクのキロク』写真展—」（開催期間：平成 24 年 12 月 26 日～平成 25 年 3 月 17 日）は、西館 2 階の防災未来ギャラリーをメイン会場、西館 5 階の資料室をサブ会場として行った。本企画展では、宮城県の市民から寄せられた東日本大震災に関する写真を集め、『3.11 キヲクのキロク』として出版した NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台の協力を得て、約 300 点の写真と、撮影者のインタビュー文を展示した。また、当センターの資料寄贈者や、展示解説ボランティア、語り部ボランティア、近隣の学生ボランティア団体など、兵庫から東北へ向かった人々が撮影した写真と、写真にまつわる思いも展示し、阪神・淡路大震災のかつての被災地と、東日本大震災の被災地が草の根の活動で繋がっていることを意識させる展示を行った。



〈市民が撮った東日本大震災—『3.11 キヲクのキロク』写真展〉

2項 企画展関連行事の実施

企画展「市民が撮った東日本大震災—『3.11 キヲクのキロク』写真展—」の関連企画として、平成 25 年 2 月 9 日にフォトトークセッション「3.11 を撮るとということ」を行った。また、東館 3 階で開催された「震災からよみがえった東北の文化財展」（開催期間：平成 24 年 12 月 11 日～平成 25 年 1 月 27 日）の連動企画として、西館 5 階の資料室にて、「阪神・淡路大震災の文化財レスキュー・修復保存関連資料展示」（開催期間：平成 24 年 12 月 12 日～平成 25 年 1 月 27 日）を行った。

フォトトークセッションでは、写真集『3.11 キヲクのキロク』の編集者である佐藤正実氏、写真提供者として、仙台市から衛藤雅之氏・齋藤高晴氏、石巻市から中山奈保子氏を迎え、東日本大震災以降に撮影された写真の解説をしていただいた。そして、震災を写真という形で記録することについて、また、写真を通して震災体験を後世に伝えることについて、トークセッションのゲスト 4 名と、阪神・淡路大震災を経験した兵庫の人々が意見を交わした。

また、文化財レスキュー関連展示では、阪神・淡路大震災における文化財の修復・保全作業や、被災した神社仏閣の再建の記録が掲載された図書資料の展示、ならびに、阪神・淡路大震災で被災した生田神社や酒蔵の震災当時と、これらの復旧・復興過程を写真としてパネル展示した。



〈トークセッション「3.11を撮るということ」〉



〈文化財レスキュー展関連展示〉

3項 防災学習用ワークシートの改訂

資料室では、次世代を担う子どもたちの防災学習をより一層進めるために、防災学習用ワークシートを作成している。対象は小学3年生以上である。ワークシートには「No.1 震災ってどんなもの?」「No.2 避難所での暮らし」「No.3 津波ってどんなもの?」「No.4 トルコ北西部地震」があった。

平成24年度は、東日本大震災やその後の議論等を踏まえて「No.3 津波ってどんなもの?」等を改訂することとなった。さらに、近年の気象災害や地球温暖化などに対する社会的関心の高まり等から、「No.5 気象災害への備え」を新たに作成し、ワークシートをNo.1からNo.5の5種類にすることとなった。

ワークシートはセンターホームページからダウンロードできるほか、1階ロビーと資料室に設置している。解答を記入して資料室に持参すると、終了印と解答シート（解説付き）がもらえる、当センターの事前・事後学習をはじめ、校外学習、夏休みの研究など、広く活用されている。平成24年度の改訂により、今後、一層、ワークシートの活用が進むことを期待したい。

4項 ぼうさいみらい子ども文庫

平成22年1月9日、震災の経験と教訓を次代に伝えるため、国際ソロプチミスト神戸より寄付を受け、「ぼうさいみらい子ども文庫」を開設した。児童向けの絵本、カルタ、ビデオ、防災体験ゲーム等を用いて、震災や防災を学べるよう工夫している。

（詳細は、参考資料6-(1)を参照）



Ⅱ章 資料収集・保存

4節 資料を通じた交流・ネットワーク

1項 他機関との連携事業

今年度も資料室では、他機関との連携による事業を実施し、震災資料の利活用促進を図った。

1 資料の横断検索システムの活用

資料室では平成 21 年 1 月より、資料室収蔵資料と神戸大学附属図書館震災文庫収蔵資料の横断検索システムをホームページ上で公開している。現段階では、資料室収蔵資料のうち図書資料を検索対象としている。今年度も資料室で新規に受け入れた図書資料のデータを更新し、新たに 1,225 件のデータを登録した（総数 37,494 件）。今後も震災資料利用者に横断検索の利用方法を伝えるなどして、さらなる利用者の増加を目指したい。

震災資料横断検索 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/crosssearch.html>



<震災資料横断検索画面>

2 災害ミュージアム研究塾による他機関との連携

今年度は研究部と共催で「災害ミュージアム研究塾 2012」を開催し、当センターと同様に、全国各地の災害・防災に関する資料収集や展示に取り組んでいる機関とのネットワーク構築を図った。

- ・ 第 1 回：平成 24 年 10 月 20 日
「阪神・淡路大震災 震災資料の 17 年」
講師 高野尚子（当センター 震災資料専門員）
- ・ 第 2 回：平成 24 年 11 月 18 日
「被災経験継承のために一複数の展示拠点とネットワークづくり」
講師 山崎麻里子（長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」）
- ・ 第 3 回：平成 24 年 12 月 16 日
「東日本大震災の文化財レスキューと展示活動」
講師 前川さおり（遠野文化センター）
若月憲夫（震災からよみがえった東北の文化財展実行委員）

・第4回：平成25年1月26日

「地域を拠点とした被災経験の継承—阪神・淡路大震災と東日本大震災—」

講師 高田由貴子（おらが大槌夢広場）

河合節二（野田北部・たかとり震災資料室）

内屋敷保（神戸市立地域人材センター）

山住勝利（神戸市立地域人材センター）

寺沢正敏（地域連携サポーター）

・第5回：平成25年2月10日

「長田区役所職員による阪神・淡路大震災の記憶継承の取り組み—人・街・ながた震災資料室の事例—」

講師 寿広文（人・街・ながた震災資料室）

清水誠一（人・街・ながた震災資料室）

武川泰恵（人・街・ながた震災資料室）

水本浩典（神戸学院大学人文学部）

・第6回：平成25年3月9日

「災害記念館からジオミュージアムへ」

講師 杉本伸一（雲仙岳災害記念館・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議事務局）

さらに、平成25年3月24日から25日にかけて、新潟県中越地震における震災記録活動や展示の現状に関する情報提供のため、現地を調査した。また、中越地震に関する展示を行っている「中越メモリアル回廊」を訪問し、視察するとともに、今後の連携構築に向けた意見交換を行った。

2項 震災資料専門員による講義

神戸学院大学での講義

主 催：神戸学院大学

実施日：平成24年12月20日

テーマ：「震災資料の収集・保存と活用」

担当者：高野尚子、石原凌河（震災資料専門員）

神戸学院大学防災・社会貢献ユニット開講の「防災論Ⅰ」の1講義を担当した。講義では、センター所蔵資料の収集経緯や資料の概要を伝えるとともに、資料の様々な活用事例を報告した。また、東日本大震災の被災地において、震災遺構を残すべきかどうか問題となっていることにも触れ、保存と撤去に関する様々な意見を紹介した。講義の最後には、参加学生からの質疑応答やディスカッションの時間も設け、講義内容について考察を深めた。

3項 震災資料の研修会・研究会

資料室では、震災資料に関する研究会等において、資料室業務の課題および震災資料の活用に関する発表を行い、他機関との交流を図っている。

(1) 第12回 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する地域連携研究会

主 催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

阪神・淡路大震災 資料の保存・活用に関する研究会

実 施 日：平成24年7月2日

実施場所：神戸大学大学院人文学研究科

伊丹市立博物館と当センターから刊行された、阪神・淡路大震災関連の資料を活用した資料集を読み深め、資料活用の方策について議論を交わした。発表者と内容は以下の通りである。

①板垣貴志（神戸大学大学院人文学研究科）

書評『阪神・淡路大震災における住まいの再建—論説と資料—』

（人と防災未来センター資料室、2012）

②石原凌河（阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室）

書評『伊丹からの発信 本文編』（伊丹市立博物館、2012）

(2) 第13回 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する地域連携研究会

主 催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

阪神・淡路大震災 資料の保存・活用に関する研究会

実 施 日：平成25年2月19日

実施場所：人と防災未来センター西館5階セミナールーム

阪神・淡路大震災の資料に関する課題に加え、新潟県長岡市に開設された、東日本大震災被災者のための避難所での資料収集についての報告も行われた。当センターからは、資料保存環境向上の取り組みについて報告した。発表者と内容は以下の通りである。

①田中洋史（長岡市立中央図書館文書資料室）

「東日本大震災の避難所アーカイブはなぜ可能だったのか～長岡市立中央図書館文書資料室の取り組み～」

②高森順子（阪神大震災を記録しつづける会）

「阪神大震災を記録しつづける会の活動」

③石原凌河（人と防災未来センター資料室）

「人と防災未来センターにおける資料保存環境向上のための取り組み」

4項 他機関によるセンター視察

資料室では、大学や各種団体などの他機関から視察を受け、震災資料の収集・保存について説明を行っている。また、資料の保存・活用など互いに抱える課題についての意見交換や阪神・淡路大震災に関する資料提供等の相談を受けている。

今年度は以下の団体からの訪問を受けた。特に、東日本大震災での被災地で震災資料収集に関わっている機関から多くの視察を受けた。

・いわき明星大学（平成24年4月15日、平成25年1月12日）

・盛岡大学（平成24年5月8日）

- ・ もりおか復興サポートオフィス（平成 24 年 6 月 15 日）
- ・ 関西学院大学（平成 24 年 7 月 20 日）
- ・ 長岡市立中央図書館文書資料室（平成 24 年 7 月 24 日）
- ・ おらが大槌夢広場（平成 24 年 10 月 2 日）
- ・ 立命館大学（平成 24 年 10 月 6 日）
- ・ 讀賣テレビ放送株式会社（平成 25 年 1 月 10 日）
- ・ N H K 放送文化研究所（平成 25 年 2 月 26 日）
- ・ 気仙沼復興協会（平成 25 年 2 月 26 日）
- ・ 宮城県図書館（平成 25 年 3 月 7 日）

5 項 センターから他機関への視察・セミナーへの参加等

資料室では、直面している様々な課題を解決すべく関係機関の視察やセミナーの参加を行っている。専門の職員との意見交換や、研究会などへの参加により、課題の解決方策の参考とした。平成 24 年度の活動は以下のとおりである。

- ・ 神戸大学附属図書館震災文庫（平成 24 年 5 月 15 日）
- ・ 文化財虫害研究所（第 34 回文化財の虫菌害・保存対策研修会、平成 24 年 6 月 18 日・19 日）
- ・ 埼玉県立文書館（平成 24 年 7 月 4 日）
- ・ プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン（脱酸処理見学、平成 24 年 7 月 4 日）
- ・ 神戸市立地域人材支援センター（平成 24 年 9 月 20 日）
- ・ 野田北部・たかとり震災資料室（平成 24 年 9 月 26 日）
- ・ 河内長野市立図書館（平成 24 年 10 月 30 日）
- ・ 広島県立文書館及び第 38 回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会（平成 24 年 11 月 8 日）
- ・ 広島市江波山気象館（平成 24 年 11 月 9 日）
- ・ 新潟大学（新潟県中越地震から東日本大震災へー被災歴史資料の保全・活用の新しい方法をさぐる一、平成 24 年 11 月 10 日）
- ・ 新潟県立歴史博物館（平成 24 年 11 月 11 日）
- ・ 長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」（平成 24 年 11 月 11 日、平成 25 年 3 月 25 日）
- ・ 人・街・ながた震災資料室（秋の企画展、平成 24 年 11 月 26 日）
- ・ 防災科学技術研究所（第 4 回 3 1 1 自治体アーカイブ会議、平成 25 年 2 月 15 日）
- ・ 神戸大学社会科学系図書館（第 2 回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会、平成 25 年 3 月 8 日）
- ・ N H K 放送文化研究所 2013 年春の研究発表とシンポジウム（3.11 震災アーカイブ活用の可能性～防災・減災、復興にいかすために、平成 25 年 3 月 15 日）
- ・ 中越メモリアル回廊（平成 25 年 3 月 24 日～ 25 日）
- ・ 長岡市立中央図書館文書資料室（平成 25 年 3 月 25 日）